

# 2015年 キリスト教一致祈禱週間

1月18日～25日



イエスは「水を飲ませてください」と言われた。

(ヨハネ4:7)

日本キリスト教協議会  
カトリック中央協議会



# 目 次

キリスト教一致祈祷週間を準備する方々へ .....	2
聖書テキスト .....	4
2015年のテーマの解説 .....	7
キリスト教一致祈祷週間2015の資料の準備 .....	12
エキュメニカル礼拝 .....	15
初めに .....	15
礼拝式文 .....	18
八日間の聖書の黙想と祈り .....	30
ブラジルのエキュメニズムの現状 .....	47
キリスト教一致祈祷週間に関する歴史上の重要な年 .....	52
キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧（1968-2015年） .....	53

## キリスト教一致祈禱週間を準備する方々へ

### 一致を求めて——年間を通じて

キリスト教一致祈禱週間は、北半球では、伝統的に1月18日から25日に行われます。この日程は、1908年にポール・ワトソン（1863–1940年）によって提案されたもので、当時祝われていた聖ペトロの祝日（ローマの聖ペトロの使徒座の祝日。現在では2月22日に祝われる）と聖パウロの祝日（聖パウロの回心）を結ぶ期間です。すなわち、日付そのものに象徴的な意味があります。しかし、南半球では、1月は休暇の季節なので、他の日程、たとえばペンテコステ（聖霊降臨の祝日）前後に変更する地方もあります。これは1926年に信仰と職制運動が提案した日程ですが、これも教会の一致のためには象徴的で意義深い日です。

日程についてはこのように弾力的にできることをご配慮ください。この資料を年間を通じて有効な招きとして受け止めてくださり、諸教会がすでに与えられている交わりを表現し、さらにキリストの御心である完全な一致を求めて共に祈る機会として用いられることを願っています。

### 各地の状況に合わせてテキストを用いる

この資料は以下のようなことを考慮して作成されています。

すなわち、日時の限定はなく、いつでも各地域で実践できる場合に用いることができます。その場合、各地の礼拝形式や社会的・文化的状況に応じて実施されることが適切です。そのためには、諸教会が協力して実行するようなエキュメニカルな企画が必要です。

ある地域では、エキュメニカルな機関がすでに設けられているでしょう。そうでない地域では、この企画が契機となって、そのような機関・組織ができればよいと願っています。

## キリスト教一致祈祷週間資料の用い方

- \* 諸教会やキリスト教共同体の諸団体が、協力して一回の合同礼拝を行う場合には、「エキュメニカル礼拝式文」をそのまま使うことができます。
- \* 諸教会・諸団体は、それぞれ各自の礼拝の中に、この資料を導入して用いることができます。たとえば、「エキュメニカル礼拝式文」や「八日間の聖書の黙想と祈り」の中から資料を得ることができます。
- \* 一週間を通して祈り、週の各曜日ごとに礼拝を行う形式を守る共同体は、資料として「八日間の聖書の黙想と祈り」を使うことができます。
- \* キリスト教一致祈祷週間のテーマについての聖書研究を行いたい場合には、「八日間の聖書の黙想と祈り」に提示されている聖句や黙想を基礎資料に使うことができます。また、ディスカッションは日毎の執り成しの祈りで締めくくることができます。
- \* 一人で祈りたい人々も、自分の祈りの思いに焦点を合わせるのに役立つような資料を見いだすことができるはずです。それをを用いることによって、自分たちが、キリストの教会の目に見えるいっそう大きな一致のために祈っている世界中の人々との交わりの中にいることを忘れずにいることができるでしょう。

# 2015年キリスト教一致祈禱週間

## 聖書テキスト

ヨハネによる福音書4章1-42節

さて、イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり、洗礼を授けておられるということが、ファリサイ派の人々の耳に入った。イエスはそれを知ると、——洗礼を授けていたのは、イエス御自身ではなく、弟子たちである——ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。しかし、サマリアを通らねばならなかった。それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渴く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」女は言った。「主よ、渴くことがないように、ま

た、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。『夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」女は言った。「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何か御用ですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。

その間に、弟子たちが「ラビ、食事をどうぞ」と勧めると、イエスは、「わたしにはあなたがたの知らない食べ物がある」と言われた。弟子たちは、「だれかが食べ物を持って来たのだろうか」と互いに言った。イエスは言われた。「わ

たしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月もある』と言っているのではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている。既に、刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、種を蒔く人も刈る人も、共に喜ぶのである。そこで、『一人が種を蒔き、別の人刈り入れる』ということわざのとおりになる。あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実りにあずかっている。』

さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるように頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」

## 2015年のテーマの解説

イエスは「水を飲ませてください」と言われた。

(ヨハネ4:7)

### 1. この水を飲む者は……

旅、焼けつくような日差し、疲れ、渇き……「水を飲ませてください」。これは、あらゆる人間が抱く要求です。キリストにおいて人となられ(ヨハネ1:14)、わたしたちの人間性を共有するためにご自分を無にされる神は、サマリアの女にこうお頼みになりました。「水を飲ませてください」(ヨハネ4:7)。神はまた、わたしたちと出会うために来られ、生きた水を与えて下さいます。「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」(ヨハネ4:14)。

イエスとサマリアの女との出会いは、別の井戸の水を飲んでみることに、また、自分自身の井戸から少しばかりを分け与えることへとわたしたちを誘います。わたしたちは、多様性のうちに互いを豊かにし合います。キリスト教一致祈祷週間、祈りと出会いと対話のための特別に恵まれた機会です。それは、自分とは異なる他の人々の中にある豊かさと価値を認める機会であると同時に、一致の賜物を神に祈り求める機会でもあるのです。

「この水を飲む人は、また戻ってくる」というブラジルのことわざがあります。これは、客が帰るときにいつも言われることわざです。生き返らせてくれる一杯の水やマテ茶<sup>1</sup>、コーヒーやテレレ(冷たいマテ茶)<sup>2</sup>は、受容と対話、共存のしるしです。やってきた人には誰であれ一杯の水を差し出すという行いが聖書には記されていますが(マタイ10:42)、この行いは歓迎と共有の表れとしてブラジルの全地域で行なわれています。

今年の一一致祈祷週間には、この聖書の箇所について学び、黙想することが提案されています。その目的は、神の国と呼ばれるイエスの計画の対話的側面を、

- (1) マテ茶は抽出による南ブラジルの伝統的な飲み物です。乾燥した茶葉を湯に浸して作ります。友人や家族と一緒に飲むのが習慣です。
- (2) 原理はマテ茶と同じです。ただし、湯の代わりに冷たい水を使います。

人々と共同体が認識できるよう助けることです。

この聖書の箇所が主張しているのは、自分自身のアイデンティティーを知り、理解している人がいかに重要であるかということです。そのような人は他者のアイデンティティーを脅威とみなしません。脅かされていると感じなければ、他者と補い合うことができます。つまり、人間であれ、文化であれ、孤立して存在するだけでは充分ではないということです。このように、「水を飲ませてください」という言葉から浮かび上がってくるイメージは、互いに補い合うというイメージです。つまり、他の人の井戸から飲むことは、他者のあり方を経験する第一歩なのです。このことは、互いを豊かにするための贈り物の交換へと進みます。他者からの贈り物を拒否することは、社会と教会に大きなダメージを与えるのです。

ヨハネ福音書の第4章において、イエスは疲れと渇きを覚えながら到着した外国人です。イエスは助けを求め、水を欲します。女は地元の人間です。つまり、井戸は彼女の民に、彼女の伝統に属しているのです。彼女が水がめを持っていたので、水をくめるのは彼女だけでした。しかし、彼女も渇きを覚えていました。二人は出会い、そして、その出会いは両者に思いがけない機会を与えます。イエスはサマリアの女の提供する水を飲みましたが、だからといってイエスがユダヤ人であることをやめたわけではありません。彼女はイエスの道を受け入れましたが、自分のアイデンティティーを失ったわけではありません。互いを必要としていることを認めるとき、わたしたちは、より実り豊かなしかたで互いに補い合います。「水を飲ませてください」という言葉が前提にしているのは、イエスもサマリアの女も互いに自分の必要としているものを相手から求めているということです。「水を飲ませてください」という言葉によって、人、共同体、文化、宗教、民族は互いを必要としているということが認識されるのです。

「水を飲ませてください」という言葉は、教会の務めを果たしていくにあたって互いの必要性を認めるという倫理的な行為を示唆しています。この言葉は自分の態度を変えるようわたしたちを促すと同時に、様々な形の祈りやキリスト教の霊性に対して開かれることを通して、多様性のただ中で一致を求めるようわたしたちを駆り立てています。

## 2. ブラジルの教會的、宗教的背景

ブラジルは、たいへん宗教的な国だと考えられています。ブラジルは伝統的に、ある種の「親切」が社会層や民族間の関係を性格づけている国として知られています。しかしながら、現在、ブラジルでは不寛容な現実が深刻化しています。それは、凶悪な暴力として表れています。特に少数民族と弱者、つまり、アフリカ系ブラジル人や若者、同性愛者、アフリカ系ブラジル人の宗教の信者、女性、先住民といった人達に対する暴力です。こうした不寛容な現実には、長い間、隠されていました。もうひとつのブラジルが、より顕著にあらわになったのは、1995年10月12日、ブラジルの守護聖人であるアパレシーダの聖母の祝日に、新ペンテコステ派の教會の監督牧師の一人が国営テレビの放送の中でアパレシーダの聖母の像をけり飛ばしたときでした。それ以来、キリスト教に由来する宗教上の不寛容さによって生じた事例が他にも現れています。また、他宗教、特にアフリカ系ブラジル人と先住民の伝統に対するキリスト者の不寛容さから生じた同様のケースもあります。

このような行いを根底で支えている論理は、宗教市場の競争です。ブラジルにおいては、いくつかのキリスト教教派が、互いに対して次第に競争的な態度をとるようになっていきます。マス・メディアでの占有率競争、新しい信者を得るための競争、主要な催しのための基金を募る競争などです。教皇フランシスコは、この状況に対して次のように指摘しています。「霊を装った世俗精神はキリスト者の一部を、力や信望や娯楽や経済的安定を求めようとするうでの妨げとなる他のキリスト者との争いへと引き込みます」（使徒的勧告『福音の喜び』98）。

こうした宗教的競争は、伝統的なキリスト教教派に影響を与えました。それらの教派では信者が減少、あるいは停滞しています。こうして、強く活発な教會というのは多くの会員を持つ教會だという考え方が普及していきました。その結果、伝統的な教會の主だった教派の中には、キリスト教教會を目に見える形で一致させようとする活動から距離を置くという傾向がみられます。

このような市場主義的なキリスト教教會は、政党政治に投資をしたり、ときには独自の政党を形成したり、大地主、農業関連産業、金融市場のような特定

の利害団体と手を結んだりしています。政界の教派化が政教分離を脅かしていると指摘する人すらいます。このように、分離の壁を打ち壊すというエキュメニズムの論理が、「団体主義」の論理と教派の利益保護とによって置き換えられているのです。

2010年の公式の国勢調査によると、86.8%のブラジル国民が自らをキリスト教徒であるとしていますが、この国では、極めて高い比率で暴力が行われています。したがって、キリスト教との結びつきの強さが、非暴力を求める態度や人間の尊厳への敬意に反映されているようには見えません。このことの実例となるのが以下のデータです。

### 女性に対する暴力

2000年から2010年の間に、ブラジルでは43,700人の女性が殺されました。暴力を受けている女性の41%が、自宅で暴行を受けています。

### 先住民族に対する暴力

先住民族に対する暴力は、しばしば大規模な水力発電の開発や農業関連産業の拡大とつながっています。これら二つのプロジェクトは、現在、国内に広まりつつある開発モデルの現れです。これらによって、先住民族の居住区域の設定や認知が大きく遅れています。2011年にブラジル・カトリック司教協議会の関連組織である、「地域司牧委員会（CPT）」が発表した報告書「ブラジルの先住民族に対する暴力」によると、ブラジルの先住民族居住地域では450の開発プロジェクトが進行中です。これらの開発では、国際労働機関（ILO）規約第169号のもとに想定される先住民族との適切な相談が行われていません。CPTの報告書は、2003年から2011年の間に500人の先住民が殺されたと非難しています。その内の62.7%はマツグロッソ・ド・スル州で起きています。一年に、55.8人の先住民が殺されているのです。

さまざまな形で行われる不寛容を克服するためには、積極的な対処が求められます。その際には、正当な多様性を尊重し、和解と平和への不変の道としての対話を、福音のもとに促進しなければなりません。

### 3. 聖書を解釈する方法

聖書の文脈的な解釈法（コンテクスチュアル・リーディング）と呼ばれる方法が、ブラジルの聖書研究エキュメニカルセンターを初めとする多くのラテンアメリカの諸教会で用いられています。この方法は、学問的にも一般的にも聖書を読むときに用いられるものです。

その方法によれば、どの聖書神学も聖書解釈も、その始まりは日常生活です。それは、エマオへの途上でイエスが用いられた方法です（ルカ24:13-24参照）。「どうしたのですか。「何を話しているのですか」。こうした背景から聖書に移っていきます。この方法論を用いた歩みにおいて、聖書はわたしたちの道の光であり、歩みを照らす灯です（詩編119:105参照）。わたしたちは聖書を自分の生活の道をてらす懐中電灯のように携えています。聖書は自分の生きる現状の中で神のみ心をあかすようにわたしたちを導き、変えていくのです。

### 4. 8日間の旅

一致祈禱週間の8日間のために提案されているこの道のりは、「宣言すること」から始まり、「問いただすこと」、「退けること」、そして「あかしすること」へと続きます。この一週間は、神の言葉を「宣言すること」から始まります。神は、ご自身の姿にかたどってわたしたちをお造りになりました。その姿は三位一体、多様性における一致です。多様性は神の計画の一部なのです。その次に、不正義や差別を生み出す罪の状況が「問いただされ」ます。三番目に、神の国の一致への歩みを妨げる罪深い態度が「退けられ」ます。そして最後に、不完全なわたしたちをいつも喜び迎えてくださる神の恵みを「あかしします」。そして神の霊が、わたしたちを和解と一致へと駆り立てます。こうしてわたしたちは、聖霊降臨（ペンテコステ）を、すなわち神の国の実現へと導く聖霊の豊かな賜物を経験するのです。

## キリスト教一致祈禱週間2015の資料の準備

キリスト教一致祈禱週間は、カトリック教会と世界教会協議会(WCC)によって主催されています。そして、2015年度の一一致祈禱週間のための資料の準備は、ブラジルキリスト教会全国協議会(CONIC)に依頼されました。CONICは、この冊子を作成するために、加盟諸教会と関連するエキュメニカル諸団体の代表による作業グループを編成しました。この作業グループは2012年4月に最初の会合をもち、7月に作業を終えています。

カトリック教会とWCCによって設立された国際委員会は、9月22日から27日にかけて、この冊子準備を完成させるために、ブラジルのサンパウロで会合を開きました。その会合は、サンパウロ市郊外の比較的貧しい地域にあるサンタモニカ・ホテル・コンベンションセンターで開かれました。このホテルはアウグスチヌス修道会によって運営されており、そのコンベンションセンターは、近隣地域で修道会が主催した数々の社会プロジェクトのために資料を提供しています。

国際委員会は、CONICが提案した草案の編集作業とは別に、一般教育と福音宣教のためのエキュメニカルセンター(CESEP)も訪問し、そこのディレクターや学生たちに会いました。この委員会の一環として、ブラジルの軍事独裁政権時代(1964～1985)に行われた人権侵害を明らかにするためのエキュメニカルな活動(特にWCC)の貢献に関する討議も行われました。

国際委員会は、ジョセ・オスカー・ベオゾフ神父とCESEPの職員と学生の方々に感謝の意を表します。また、アニバルド・パジーリャ氏とマカリ・ド・ナッシメントクーニャ博士にも心から感謝申し上げます。両氏は、国際委員会のメンバーが2015年度のテーマと祈りの社会的、教会的背景に関する理解を深めるためにご尽力くださいました。

国際委員会は以下の皆さんに特に感謝を表したいと思います。

ブラジルキリスト教会全国協議会（CONIC）

マノエル ジョアン フランシスコ司教・・・・・・議長（ローマ・カトリック）

エリニテ W. パエス ミラー長老・・・・・・第二副議長（長老派）

ロミ マルシア ベンケ牧師・・・・・・総書記（ルーテル）

2015年度一致祈祷週間のためにCONICとWCCとの間の連絡をとりもってくださったCONICの第一副議長、フランシスコ デ アッシシ主教（聖公会）に感謝申し上げます。

ラテンアメリカ教会協議会ブラジル地区事務所（CLAI）

ダーリ アルヴス長老 総書記（長老派）

聖書研究のためのエキュメニカルセンター（CEBI）

オジャ バロス 牧師 委員会委員（バプテスト）

エドミルソン シネーロ氏 幹事（ローマ・カトリック）

パウロ ウエチ博士 アドバイザー（聖公会）

助言と養成のためのエキュメニカルセンター

クラウディオ ベッカー（ルーテル）

英語への翻訳をしてくださったルスマリナ カンポス ガルシア牧師（ルーテル）とドナルド ネルソン牧師には特別の感謝を申し上げます。

---

ブラジルキリスト教会全国協議会（CONIC）は1982年に創立され、以下の諸教会によって構成されている。ローマ・カトリック教会、ブラジル福音ルーテル告白教会（IECLB）、ブラジル英国監督教会、合同長老教会、そしてアンティオキアからのシリア正教会。CONICの使命はブラジルの現実に寄り添いつつ、その現実を福音と神の領域が求めることに向かわせるよう努めながら、キリスト教会の一致のために働くことにある。このように、CONICは、人間の尊厳と人々の権利と責務のために尽力している。それは、福音のメッセージに従うことの一つの表れである。

CONICの目指すところは、キリスト教諸教会間のエキュメニカルな関係を構築し、支援することであり、人権を擁護するための合同のあかしを促すことにある。

また、上にあげたメンバー教会以外にも、次のようなエキュメニカルグループがCONICに友情参加している。

#### ラテンアメリカ教会協議会 (CLAI)

1982年設立。CLAIは、諸教会とエキュメニカルグループの間の対話と協働を促すことを目的としている。また、一致とあかし、奉仕のために必要な諸宗教の対話のための場も提供している。

#### 聖書研究センター (CEBI)

1979年設立。このセンターは社会において聖書学習を充実させるために活動している。聖書を読むという方法によって、人々のグループを結びつけ、まとめることを目的としている。また、生活支援、特にこの国で社会的に追いやられている人々に対する生活支援に焦点を当てた霊的な養成も行っている。

# エキュメニカル礼拝

## 初めに

このエキュメニカル礼拝の概要は、今年度のキリスト教一致祈禱週間の冒頭、もしくは、地域共同体がふさわしいと判断した他の機会に用いることができます。

イエスはユダヤを去り、ガリラヤに行かれる途中でサマリアの地を通ることを選ばれました。その道は、サマリアの女が水をくみに来た井戸の脇を通る道でした。この礼拝を準備したブラジルのエキュメニカルグループは、道と水という二つのシンボルを、キリスト者の目に見える形の一致というわたしたちが祈り求めている一致の象徴として用いるよう提案しています。そして、この礼拝に欠かせない次の「最初の問いかけ」について考えるように求めています。

どの道が一致のための道なのでしょうか。この世がいのちの源であるイエス・キリストからの水を飲むようになるためには、どの道を選び取るべきでしょうか。

どの道が、わたしたちの多様性をふさわしい形で認めあう、一致への道なのでしょうか。

この一致への道には、水で満たされた井戸があります。その水は、旅に疲れたイエスが求めた水であると同時に、永遠のいのちへとわき上がるようにイエスがお与えになった水でもあります。サマリアの女が日々、くみあげていた水は、渴きを癒す水であると同時に、砂漠に花を咲かせる水でもあります。イエスがお与えになる水は、神の霊がとどまる水であると同時に、わたしたちが洗

礼を受けたあの生きた水でもあるのです。

今年のキリスト教一致祈祷週間の中心となるのはヨハネ福音書の第4章第1節から42節までの箇所です。この長い引用箇所を、ドラマ仕立てにして数人で朗読することもできるでしょう。

この福音朗読の後には黙想が行われますが、その際には礼拝に集うグループの規模によって、いくつかの選択肢があります。

- ・ まず、少人数のグループに分かれて「最初の問いかけ」にそって意見交換をした後に、また会衆席に戻る。
- ・ この聖書箇所に焦点を当て、「最初の問いかけ」を考慮に入れた説教や訓話を行う。

## 道と井戸

礼拝を行う場所の中央通路の床にロウソク、花、様々な色の布などを置いて、道を整えることもできます。その道は会衆の前まで続くようにするとよいでしょう。その道の中央には大きめの水盤を置き、その脇に水差しをいくつか用意します。水差しはそれぞれ違うものを用意して、集会の多様性を表すようにします。

司式者はこの「道」をとおって入堂します。参加しているそれぞれの教会の代表者は、「井戸」の近くを通るときに、ゆっくりと水差しから水盤に水を注ぎます。この水は、異なる源からの水であり、わたしたちが一致することの象徴です。その一致は、不完全で目に見えなくとも、すでに現れています。この一連の動作は、礼拝の始めに行うとよいでしょう。また、説教でそのことにふれてもよいでしょう。

この道は、罪を告白する準備をするときにも用いられます。会衆の中の様々な場所にいる人々が、この道を通して、罪のゆるしを求めるために進み出るよ

うにします。

祝福の後、参加者は互いに平和と交わりのあいさつを交わし、礼拝堂を後にして親睦の場へと移動して、共に親しく交わりつつ礼拝を終えます。

## 礼拝の構成

耳やからだที่ไม่自由な方が礼拝に完全に参加できるように、特別に配慮をする必要があります。

この礼拝は5部から成ります。

### I. 前奏と準備

あいさつと一致祈禱週間のテーマの導入

### II. 開会

祈りへの招き

罪の告白とキリエ

### III. 福音宣言

### IV. 信仰と一致の応答

信仰告白（ニケア・コンスタンチノーブル信条、使徒信条、または他の信仰告白、例えばバプテスマの約束の更新などを用いる）

とりなしの祈り

献金

主の祈り（唱えるか歌う）

### V. 祝福、平和のあいさつと派遣

後奏

# 礼 拝 式 文

## I. 前奏と準備

礼拝の始めにロウソクがともされる。

## あいさつと一致祈禱週間のテーマの導入

はじめに、この礼拝への歓迎の意が述べられ、今年の一致祈禱のテーマについての簡単な解説が行われるようにする。

司式者：礼拝奉仕者が道にそって入堂致しますので、どうぞお立ちいただき、賛美歌を歌ってお迎えください。ご参加くださったそれぞれの教会の代表の方々が、井戸を表す器の所に来られるとき、ゆっくりと水を注いで参ります。この水は、それぞれ違った場所から持ち寄られてきています。一つに注がれることで、わたしたちの不完全でありながらも確かな一致を表すシンボルとなるのです。

奉仕者たちの数が少ない場合、可能であれば、それぞれの名前と所属の教会名を言うようにするとよい。

## II. 開会

# 水

## A água

(The Water / L'eau / Die Wasser / El Agua)

Simeí Monteiro, Brazil

Albete Correia, Brasil

Leader, then All

C F C C7 F C

A - qui che - gan - do, Se - nhor, que po - de - re - mos te dar?  
 Ar - riv - ing here oh, dear God! What can we of - fer to you?  
 Nous ar - ri - vons, ô Sei - gneur, que pour - rons - nous te don - ner?  
 Gott, wie sind hier, hier vor dir, Gott, wir ru - fen zu dir.  
 A - qui lle - ga - mos, Se - ñor. ¿Qué te po - de - mos tra - er?

F C7 C F C

Um sim - ples co - ra - ção eu - ma von - ta - de de can - tar.  
 A sim - ple heart and deep - est wish to sing a joy - ful song.  
 un hum - ble coeur et dans la joie l'en - vie de te chan - ter.  
 In uns' - er Sehn - such nach dir, sin - gen, sin - ger wir ein Lied:  
 Un sim - ple co - ra - zón y nues - tras ga - nas de can - tar.

Dm Em C Dm G7/B C

Re - ce - be nos - so lou - vor e tu - a paz vem nos dar.  
 Re - ceive our best gifts of praise and may your peace be with us.  
 Sei - gneur re - pois nos lou - anges et viens nous don - ner ta paix.  
 Lass dei - nen Frie - den mit uns, lass dei - nen Frie - den mit uns sein.  
 Re - ci - be nues - tro lo - or y da - nos tu ple - na paz.

C Dm Em C Dm/F G9 C

A tu - a gra - ça, Se - nhor, me - lhor que a vi - da, se - rá.  
 Your faith - ful mer - cy and grace will be much bet - ter than life,  
 Sei - gneur, ta fi - dé - li - té, no - tre vie trans - for - me - ra.  
 Bring dei - ne Gna - de, du Gott in un - ser Le - ben hin - ein.  
 Por - que tu gra - çia, Se - ñor, vi - da - bun - dan - te tra e - rá.

F G F C/G

E o teu a - mor, em nós, se - rá ma - nan - ci - al  
 And in the de - sert of our lives a ri - ver flows  
 Dans les dé - serts de no - tre vie: u - ne ri - vière,  
 Und al - le Wüs - ten uns - res Le - bens bliu - hen auf,  
 Y tu a - mor se - rá cual fue - te sus i - gual

C Dm C F6 Dm7/G C

de á - gua bo - a a jor - rar pra nos - sa se - des - tan - car.  
 a pure wa - ter for growth; re - fresh ing, heal - ing our land.  
 vi - ve ton eau cou - le - ra pour re - ver - dir no - tre terre.  
 wenn dein Se - gen uns trifft und uns er - neu - ert und heilt.  
 de a - gua pu - ran rau - dal que to - da sed - cal - ma - rá.

Music: Albete Correia, Portuguese & English: Simeí Monteiro, French: David Finet, Spanish: Gerardo Oberman © 2013 WCC-COE, P.O. Box 2100, CH-1211 Geneva 2.  
 German: Fritz Balthausen © 2013 ted-Verlag, Düsseldorf Germany. For non-profit use only.

あなたのみもと 近づくわたし  
ありのまま 主よ、受け入れたまえ  
賛美のこころ 平和をもとむ  
あなたの恵み かわきをいやし  
新しく わたしを生かす  
あなたの愛は まことのいずみ

### 祈りへの招き<sup>3</sup>

司式者：全能の神よ、様々な多様性を認める一致のための風を、わたしたちの  
うちに吹き込んでください。

全 員：互いを歓迎し、わたしたちを一つの共同体とする寛容を、わたしたち  
のうちに吹き込んでください。

司式者：分かれているものを一つにし、病んでいる人を癒す灯をわたしたちの  
うちに吹き込んでください。

全 員：憎しみを克服し、わたしたちを暴力から解放する恵みを、わたしたち  
のうちに吹き込んでください。

司式者：死に敢然と立ち向かい、これを打ち負かすいのちを、わたしたちのう  
ちに吹き込んでください。

全 員：すべてを新しくする、父と子と、聖霊の恵みの神が賛美されますよう  
に。アーメン。

### 罪の告白とキリエ

司式者：へりくだって、神の子として、またキリストにおける姉妹・兄弟とし  
て、神の恵みを受け、すべての関係を新しくする神の呼びかけに応え  
ましょう。

---

(3) イネ・デ・フランサ・ベントによる祈りを以下の書から引用。Rubem Alves (Org), CultoArte, Celebrando a Vida, Pentecostes, Ed. Vozes, Petrópolis, RJ 2002, p. 21

# 主よ あわれんでください

## Señor, ten piedad de nosotros

Traditional

Clara Ajo and Pedro Triana, Cuba  
(from "Misa Cubana")

Se - ñor, ten pie - dad de no - so - tros. Cris - to,  
Se - ñhor, tem pie - da - de de nós. Cris - to,  
Sci - gneur, aie pi - tié de nous. Christ,  
O Lord, have mer - cy u - pon us. Christ,  
Oh Herr, er - bar - me dich. Chris - tus,

ten pie - dad de no - so - tros. Se - ñor, ten pie - dad de no -  
tem pie - da - de de nós. Se - ñhor, tem pie - da - de de  
aie pi - tié de nous. Sci - gneur, aie pi - tié de  
have mer - cy u - pon us. O Lord, have mer - cy u -  
er - bar - me dich. Oh Herr, er - bar - me

so - tros. Sí, ten pie - dad de no - so - tros.  
nós. Sim, tem pie - da - de de nós.  
nous. Oui, aie pi - tié de nous.  
pon us. Yes, have mer - cy u - pon us.  
dich. Ja, er - bar - me dich.

Text adapt: Spanish, Portuguese and Music: © Clara Ajo and Pedro Triana, Matanzas, Cuba.  
Adapted text in English, German and French: © WCC-COE, P.O. Box 2100, CH-1211 Geneva 2. For non-profit use only.

主よ、あわれんでください。キリスト、あわれんでください。

主よ、あわれんでください。いま、あわれんでください。

司式者：恵み深い主、この水の上にあなたの霊はとどまり、そこで、多様性が芽吹き、栄えています。わたしたちは、認められるべき違いについてもそれとともに生きることが難しいと感じてしまうことを告白します。こうした心の態度、言葉、行動が多様性をもった一致への暴力を行っていることをゆるしてください。

全 員： 主よ、あわれんでください…（歌う）

司式者：恵み深いキリスト、あなたは多くの人々の恵みであり、また喜びです。

すべてを聞いてくださるお方であり、また教えて諭してくださるお方です。あなたはわたしたちに新しい希望を与え、また心とからだの傷を癒してくださいます。

いま、わたしたちは告白します。

わたしたちは、自分と異なる人々からの声を聞くことをしませんでした。また、癒しや希望をもたらすような言葉を話すことが出来ず、連帯と交わりを呼び求める人々に対して、かたくなにそれを拒み、排除する態度をとり続けました。

全 員：主よ、あわれんでください…（歌う）

司式者：恵みの主、あなたはすべての被造物の源、永遠であり、いのちを与えるみ言葉そのものです。

いま、わたしたちは告白します。

わたしたちはあなたがつくられた世界がうめき、解放と新しくされることを呼び求めているのに、それに聞くことをしませんでした。わたしたちがともに歩むことが出来ますように。そして苦しみのなかで癒しと助けを求めているすべてのいのちあるものの中にあなたの声を聞いていくことができますように。

司式者：神よ、あわれみと恵みの泉、あなたのゆるしをわたしたちに注いでください。

あなたの愛によって、わたしたちをあなたの民の力を取り戻す生きた水の源につくり変えてください。わたしたちの主、キリストをとおしてこの祈りを捧げます。

全 員：アーメン。

# 聖霊、ここに来て

## Vem, Santo Espírito

Simeí Monteiro, Brasil

Simeí Monteiro, Brasil

*Lento*

D G D C D

1. Vem, ó Tu que fa - zes no - vos, os sis - te - mas de pen - sar, que às  
 1. Ven, oh Tu que ha - ces nue - vos los sis - te - mas de pen - sar, que a las  
 1. Come, O come, cre - at - ing Spir - it, You can change our way of thought; to the  
 1. Es - prit Saint qui re - nou - vel - le nos pen - sées et nos es - prits, viens ou -  
 1. Kom - me zu uns als Er - neu - rer, än - dre uns - re Den - kungs - art, gib im

G D C D

le - tras das sen - ti - do e am - pli - as nos - so, o - lhar! Vem, e  
 le - tras das sen - ti - do y que, am - pli - as el mí - rar. Ven y  
 writ - ten word give mean - ing, wi - der vi - sion You have brought. Touch our  
 vrir nos yeux, nos lè - vres, et fais lui - re nos é - crits. Viens et  
 Han - deln uns die Stüt - ze dei - ner sich - ren Ge - gen - wart. Komm be -

10 G A7 D E C D

to - ca nos - so mun - do: ter - ra á - ri - da de dor. Nes - te  
 to - ca nues - tro mun - do: tie - rra lle - na de a - fli - cción. A - es - tos  
 earth dried out with sor - row, touch our world of ar - id death. On the  
 tou - che no - tre mon - de, souf - fle vie et vé - ri - té sur les  
 rüh - re un - ser Da - sein, die - ses dür - re Land der Qual, lass den

14 G Gm D E Em7 D Gm D D

va - le de, os - sos se - cos so - pra vi - da e a - mor!  
 hue - sos se - cos so - pla rue - va vi - da y a - mor!  
 dry bones of this val - ley blow Your lov - ing, liv - ing breath.  
 plaies les plus pro - fon - des, les os - se - ments des - sé - chés. sur les  
 Le - bens - quell der Lie - be strö - men in dies trock - ne Tal.

Original text and music © Simeí Monteiro. Spanish © Juan Gattinoni. English © Shirley Erena Murray.  
 French © Marc Chambron. German © Reinhold Renner. Used by permission.

1. 聖霊、ここに来て わたしのすべてを  
神のみこころに 生かしてください。  
かわいた心を 愛でうるおし  
あなたのみくにを 示してください。
2. 聖霊、ここに来て わたしのすべてを  
神のみこころに 生かしてください。  
争うこの世に あなたの平和  
もたらず みわざに 用いてください。

### Ⅲ. 福音宣言

## アレルヤ

### Aleluia

Don Pedro Casaldàliga  
Pedro Tierra

(from *Missa da Terra sem Males*)

Martin Coplas  
Arr. Pery A. Alves de Souza

Refrain  $\text{♩} = 132$

A - le - lu - ia, a - le - lu - ia, a - le - lu - ia! A - le - ia!  
Al - le - lu, al - le - lu - ia, al - le - lu - ia! Al - le - ia!

To - dos os po - vos da ter - ra, da Ter - ra sem Ma - les lou - vem ao Pai!  
Come, all you lands, join the prais - es, the Land with - out E - vil of - fers to God.

Portuguese: Don Pedro Casaldàliga, Brasil e Pedro Tierra, Paraguay. Musica: Martin Coplas, Argentina  
© 2014. Administered by WCC-COE, P.O. Box 2190, CH-1211 Geneva 2. English: © 2014 Terry MacArthur, USA.

アレルヤ アレルヤ アレルヤ

すべてのひとびと 神を賛美 しよう。

### 福音朗読 (ヨハネによる福音書4:1-42)

(朗読または演出)

# 黙想または説教

## IV. 信仰と一致の応答

### 信仰告白

(ニケア・コンスタンチノーブル信条、使徒信条、または他の信仰告白、例えばバプテスマの約束の更新などを用いる)

### とりなしの祈り

(会衆は、次の先住民のメロディー “グアイクル・キリエ” や他の歌を歌う)

## 主よ 聞いてください

### Ouve, Deus de Amor

(Hear us, God of love)

Simeí Monteiro

Melodia Guaicuru adap. Simeí Monteiro

120

Ou - ve, Deus de a - mor nos - so cla - mor! Ou - ve, Deus de a - mor  
Hear us, God of love! Hear this our cry! Hear us, God of love!

nos - so cla - mor! Ou - ve Deus de a - mor, Ou - ve Deus de a - mor,  
hear this our cry! Hear us, God of love! Hear... this our cry!

Ou - ve, Deus de a - mor, Ou - ve, Deus de a - mor, o nos - so cla - mor, o nos -  
Hear us, God of love! Hear... this our cry! Hear our cry, we pray Hear our

so cla - mor. Ou - ve, Deus de a - mor nos - so cla - mor!  
cry, we pray! Hear us, God of love! Hear this our cry!

Text by Simeí Monteiro. Music from Guaicuru People ©2000 General Board of Global Ministries, GBGMusik, 475, Riverside Dr, New York, NY, 10115

主よ 聞いてください。わたしたちの祈り  
愛の神、愛の神、この祈り、この叫び、  
この祈り この叫び 聞いてください、祈りを。

司式者：永遠の慈悲の神よ、わたしたち一人ひとり、そして共同体は、あなたの光を求めます。それによってわたしたちは、もっと他者を歓待し、理解するようになり、またこの世界の苦しみを軽減するようになります。

全員：主よ 聞いてください。愛の神、愛の神、この祈り、この叫び、この祈り、この叫び 聞いてください、祈りを。(賛美する)

司式者：永遠の慈悲の神よ、あなたの子どもたちに、慈善と歓待、一致は人類に対するあなたの啓示であり意志の表現であることを教えて下さい。

全員：主よ 聞いてください。愛の神、愛の神、この祈り、この叫び、この祈り、この叫び 聞いてください、祈りを。(賛美する)

司式者：永遠の慈悲の神よ、わたしたちは切に願います。わたしたちに平和を与えてください。わたしたちが寛容と非暴力の世界を創りだすものとなるように助け導いてください。

全員：主よ 聞いてください。愛の神、愛の神、この祈り、この叫び、この祈り、この叫び 聞いてください、祈りを。(賛美する)

司式者：永遠の慈悲の神よ、あなたは創造を通して、預言者を通して、そして御子イエス・キリストを通して、あなたの御心を示してくださいました。わたしたちに多様性の中で一致を求めるように招いてくださるあなたの御声を聞く知恵を与えてください。

全員：主よ 聞いてください。愛の神、愛の神、この祈り、この叫び、この祈り、この叫び 聞いてください、祈りを。(賛美する)

司式者：永遠の慈悲の神よ、異邦人としてサマリアの女に出会い、水をお求めになった、あなたの御子イエス・キリストの名によって、わたしたちに永遠のいのちに至る生きた水をお与えください。

全 員：主よ 聞いてください。愛の神、愛の神、この祈り、この叫び、この祈り、この叫び 聞いてください、祈りを。(賛美する)

各教会ごとに他の祈祷文を加えることもできる。

## 献金

司式者：わたしたちは愛と思いやりのしるしとして、わたしたちの人生を献げることが主イエスに教えられました。神よ、わたしたちがあなたの御言葉と恵みの働きに献げられる生けるいけにえとなるようにしてください。

(献金を行う)

司式者：わたしたちと共に、そしてわたしたちの中におられる神よ、あなたの光と聖霊の恵みを今日、わたしたちに与え、わたしたちの働きを続けさせてください。たとえ自分と異なる人であっても、すべての人々を迎え入れて耳を傾けられるようにしてください。わたしたちの心の中にある暴力を取り除いてください。また、他者の人間としての尊厳を無視し、ないがしろにするような差別的な態度も取り去ってください。わたしたちの教会を誰でも受け入れる集いにしてください。教会が祭儀とゆるし、喜びと優しさ、強さと信仰が日々実践される場となりますように。教会が日々の糧となりますように。そして、イエス・キリストへの日々の歩みとなりますように。

全 員：アーメン。

注：会衆は、各々の教会の形式で献金をささげる。献金を祭壇の前に持ってきて、華やかな布の上に置いてもよい。献金が行われる際には、礼拝委員会が選曲した賛美歌を歌う。

## 主の祈り

(唱えるか、歌う)

## V. 祝福、平和のあいさつと派遣

### 祝 福

司式者：主なる神が

皆さんを祝福し守られますように、  
皆さんの心が優しきで満たされ、魂が喜びで満たされますように、  
皆さんの耳が音楽で、鼻がよき香りで、舌が希望を与える歌で満たされますように。

命の水なるイエス・キリストが  
皆さんの背後にあって、守ってください、  
皆さんの先にあつて、導いてくださり、  
皆さんのそばにあつて、共にいてくださり、  
皆さんの内にあつて、慰めてくださり、  
皆さんの上にあつて、祝福してくださいますように。

命を与えてくださる聖霊が  
皆さんの思いが聖なるものとなるように、  
皆さんの内に息を吹き込んでくださり、  
皆さんの業が聖なるものとなるように、  
皆さんの内に働いてくださり、

皆さんが聖なるものを愛するように、  
皆さんの心を引き寄せてくださり、  
皆さんが聖なるものを守れるように、  
皆さんを強めてくださいますように。  
聖霊が、皆さんの心の内に留まってくださり、  
乾いた心に潤いを、冷たい心に温かさを、  
魂の深みに聖霊の愛の火を灯してくださいますように。  
そして、まことの信仰と、固い希望と、誠実で  
完全な愛を与えてくださいますように。

全 員：アーメン。

## 平和のあいさつ

司式者：神は、わたしたちが互いに歓迎し合うよう導き、もてなしを实践するよう求めておられます。キリスト教の一致の道を歩むわたしたちに、神が平和と安らぎを与えてくださいますように。  
キリストの平和のうちに歩みつつ、互いに平和のしるしを分かち合いましょう。

## 後奏

## 八日間の聖書の黙想と祈り

### 第1日 宣言する

サマリアを通らなければならない (ヨハネ 4:4)

創世記24:10-33 アブラハムと井戸におけるリベカ

詩篇42 谷川の水を求める鹿

コリントの信徒への手紙一8:1-7 マケドニアの教会の豊かな施し

ヨハネによる福音書 4:1-4 イエスはサマリアを通らねばならなかった

### 解説

イエスは弟子たちとともにユダヤからガリラヤへ向かわれました。サマリアは、この二つの地域の間にあります。当時、サマリア地方やサマリア人に対してはある種の悪評がありました。サマリアに対する悪評は、人種や宗教が混在していたことに由来するものでしたが、そのため、この地方に足を踏み入れないよう、旅人たちが回り道をしていくことも珍しくありませんでした。

それでは、ヨハネ福音書に記されている「サマリアを通過して行く」とは、どういう意味なのでしょう。それは単に地理的な問題ではなく、イエスの選択です。「サマリアを通過して行く」というのは、他者、自分とは違う者、しばしば脅威とみなされるような者に会わなければいけないという意味です。

ユダヤ人とサマリア人との対立には長い歴史があります。サマリア人の先祖たちは、エルサレム神殿での礼拝を課していた南の王朝から分裂しました(列王記上12)。その後、アッシリア人がサマリアに侵略し、多くのサマリア人を追放したとき、アッシリアは異なった神々を信じる多くの異民族を連れてきてこの地に住まわせました(列王記下17:24-34)。ユダヤ人にとって、サマリア人は「混じり合い、汚れた」民族となったのです。ヨハネ福音書のその後の箇所には、イエスの評判をおとしめようとしたユダヤ人たちが「あなたはサ

「マリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」(8:48)と言ったと記されています。

一方、サマリア人も、ユダヤ人を受け入れがたく思っていました(4:9)。ユダヤ人の指導者ヨハネ・ヒルカヌスが、紀元前128年ごろにサマリア人がゲリジム山に建てた神殿を破壊しました。このことにより、過去の傷がさらに広がりました。ルカ福音書によれば、イエスご自身も、少なくとも一度は、ユダヤに向かっているというだけの理由で、サマリアの町で受け入れてもらえませんでした(ルカ9:53)。対話への抵抗は、ユダヤとサマリアの双方から来ていたのです。

「サマリアを通っていく」ことを選択したのはイエスであると、ヨハネは明記しています。イエスは自らの民族以外の人々に近づきました。ここでイエスが示していることは、自分と異なる人々から離れ、自分と同じような人とばかり関わりあうと、自分で自分を貧しくしてしまうということです。わたしたちを成長させるのは、自分とは違った人々との対話なのです。

## 問い

- 1) わたしにとって、またわたしの信仰共同体にとって、「サマリアを通らなければならない」とはどういうことでしょうか。
- 2) わたしの教会は、他の教会と出会うためにどのような歩みをしてきたでしょう。また、諸教会は、互いから何を学んできたでしょう。

## 祈り

すべての民族の神よ

他の教会の兄弟姉妹と出会うために

サマリアを通っていくことをお教えください。

あらゆる教会や文化から学ぶために

開かれた心でそこに行くことをおゆるしてください。

あなたが一致の源であることを告白します。

キリストがわたしたちに望まれた一致をお与えください。

アーメン。

## 第2日 問いただす (1)

イエスは旅に疲れ、井戸に向かって座られる (ヨハネ 4:6)

創世記29:1-14 井戸におけるヤコブとラケル

詩篇137 異国の地でどうして主の歌を歌えようか

コリントの信徒への手紙一1:10-18 あなたがたはめいめい、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」などと言い合っているとのこと

ヨハネによる福音書4:5-6 イエスは旅にお疲れになる

### 解説

イエスはサマリアの女に出会う前、ユダヤにおられました。そこではファリサイ派が、イエスが洗礼者ヨハネよりも多くの弟子たちに洗礼を授けていると言いつつ広め始めていました。もしかすると、この評判が何らかの緊張関係や居心地の悪さを生み出していたかもしれません。イエスがユダヤを離れる決心をされたのも、この評判が原因だったかもしれません。

井戸にたどり着くと、イエスはそこで休むことにしました。旅で疲れていたのです。うわさも疲れの一因だったかもしれません。イエスが休んでいる間に、サマリアの女が井戸に水をくみに来ました。この出会いが起きたのは、聖書の民の生活と霊性にとって象徴的な場所である、ヤコブの井戸でした。

イエスとサマリアの女の間で礼拝の場所についての対話が始まります。「この山の上ですか、それともエルサレムですか」と彼女は聞きます。「この山でもエルサレムでもないところで…まことの礼拝をする者たちは霊と真理を持って父を礼拝する。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ」(ヨハネ4:21-24)とイエスは答えます。

諸教会間においては、今日でも、ともに一致を求めるのではなく競争や論争が生じる場合があります。近年のブラジルはそういう状況です。新しい信者を引き寄せるために、自分たちの良いところばかりを宣伝し、信者に与え

られる利益などを強調する共同体もあります。また、教会の規模が大きく会員数が多いほど、より強い力を持ち、より神に近いのだと考え、自分たちだけが真の礼拝者だと主張する人たちもいます。その結果、他の宗教や伝統が暴力を受けたり、軽蔑されたりしています。こうした競争の激しい市場のような状況は、諸教会間に不信をもたらし、社会におけるキリスト教全体の信用性を失わせます。競争が激しくなるにしたがって、「他の」教会が敵となってしまうのです。

真の礼拝者とはどういう人でしょうか。真の礼拝者は、誰が優れていて、誰が劣っているかというような競争の論理が信仰を侵すことを許しません。わたしたちには、寄りかかって休めるような「井戸」、論争や競争、暴力を忘れ去ってしまえるような「井戸」が必要です。真の礼拝者は「霊と真理のうちに」礼拝することを学べる場所を必要としているのです。

## 問い

- 1) わたしたちの教会が互いに競い合っている主な原因は何でしょうか。
- 2) わたしたちは、論争や競争から離れ、寄りかかって休むことができるような共通の「井戸」を見つけることができるでしょうか。

## 祈り

恵み深い神よ、

わたしたちの教会はしばしば競争の論理を選んでしまいます。

わたしたちの不遜の罪をおゆるしてください。

わたしたちは一番であることを求めることに疲れています。「井戸」で休ませてください。

共通の祈りからくんだ一致の水で、わたしたちを潤してください。

混沌とした水の上を行かれるあなたの霊が、

多様性から、一致をもたらしてくださいますように。

アーメン。

### 第3日 問いただす (2)

わたしには夫はおりません (ヨハネ 4:17)

列王記下17:24-34 アッシリアに征服されるサマリア

詩篇139:1-12 「主よ、あなたはわたしを探し、知っておられた」

ローマの信徒への手紙7:1-4 「あなたはキリストの体を通して律法に死んだ」

ヨハネによる福音書4:16-19 「わたしには夫はおりません」

#### 解説

サマリアの女はイエスに答えて言います「わたしには夫はいません」。水の話から夫の話へと話題が移り、今度はこの女性の結婚生活が焦点になっています。「行ってあなたの夫を呼んできなさい」(ヨハネ4:16)。しかしイエスは、この女性にかつて五人の夫がいたこと、いま連れ添っている男性は夫ではないことを知っていました。

この女性はどういう状況におかれていたのでしょうか。彼女の夫たちは離婚を求めたのでしょうか。それともこの人は未亡人だったのでしょうか。また、子どもはいたのでしょうか。この物語に接するとき、こうした疑問が自然に浮かんできます。しかし、イエスはこの女性の状況の別の次元に関心を持っておられました。イエスは彼女のそのような人生を認識しつつも、彼女と出会うために開かれた態度を示し続けます。イエスは彼女の応答を倫理的に解釈することにこだわるのではなく、それを超えてこの女性を導こうとしているように思われます。その結果、この女性のイエスに対する態度も変わります。このとき、文化的、宗教的な相違は背後に消え去り、もっと大切なことが表れます。それは信頼して出会うことです。このイエスの行いにより、わたしたちは窓を新たに開き、質問を投げかけることができます。それらの問いは、女性を中傷したり、虐げたりするような態度に疑問を投げかける問いであり、またわたしたちが祈り求めている一致を妨げている相違についての問いでもあるのです。

## 問い

- 1) わたしたちの共同体の中にある罪深い構造とはどんなものでしょうか。
- 2) 教会の中で女性はどんな立場や役割を持っていますか。
- 3) 女性や少女に対する暴力という問題を克服し、それを防止するために教会は何ができるでしょうか。

## 祈り

すべてのものを超えている神よ、  
他のどんな名であなたを呼ぶことができますよう。  
あなたのためにどんな歌を歌うことができるでしょう。  
どの言葉もあなたを表すことはできません。  
どんな霊があなたを理解することができるでしょう。  
どの知性もあなたを理解することはできません。  
あなたは、唯一、表すことのできない方です。  
すべての言葉はあなたから来ているからです。  
あなたは、唯一、知ることのできない方です。  
すべての思考はあなたから来ているからです。  
言葉を話すものも、話せないものも、  
すべての被造物があなたを告げ知らせています。  
すべてのものがあなたを欲し、ため息をつき、あなたに思い焦がれます。  
すべてのものがあなたに祈ります。  
そして、あなたの国を見つめるすべてのものが、静かに讃美歌を歌います。  
すべてのものを超えている神よ、あわれんでください。  
他のどんな名であなたを呼ぶことができますよう。  
アーメン。

(ナジアンゾスのグレゴリオス作)

## 第4日 退ける

女は水がめをそこに置いた（ヨハネ4：28）

創世記11：31－12：4 神はアブラムを大いなる国民、祝福とすると約束される

詩篇23 主はわたしの牧者

使徒言行録10：9－20 「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない」

ヨハネによる福音書4：25－28 女は水がめを置く

### 解説

イエスとサマリアの女の対話は、自分とは違う人、異邦人、見慣れない人との出会いが、いのちを与える出会いとなり得ることを示しています。もしこの女性が自分の文化のルールに従っていたら、イエスが井戸に近づいてくるのを見たときに、その場を離れたでしょう。その日、何らかの理由で、彼女はそのしきたりに従いませんでした。イエスもこの女性も、通常の行動パターンを破りました。破ることによって新しい関係が築かれることを、この二人は教えているのです。

イエスが御父のわざを成し遂げているとき、サマリアの女は彼女の役割として水がめを置きます。それは、彼女が、社会によって課せられた役割に制限されることなく、自分の人生を前に進めることができたことを意味しています。ヨハネ福音書においては、彼女がイエスをメシアだと宣言する最初の人物です。信仰のうちにより強く、より賢く成長することを望む人には、しきたりを超えるような行動が必要なのです。

また、サマリアの女が水がめを置いていったことは、彼女が、より素晴らしい贈り物、自分がくみに来た水よりももっとよいもの、自分の共同体の中によりよい場を見いだしたことを表わしています。彼女は、ユダヤ人であり異邦人であるイエスが差し出した、よりよい贈り物に気づくことができたのです。

馴染みのない物や他人の物の価値を認め、良いもの、聖なるものとして認識することは難しいことです。しかし、他の人が受けた贈り物を、よいもの、聖なるものとして認識することは、わたしたちが求める目に見える一致に到達するために必要なことなのです。

## 問い

- 1) イエスに出会うためには、わたしたちの水がめを置いていく必要があります。わたしたちにとって、その水がめとは何でしょうか。
- 2) そうするのを妨げる、おもな原因は何でしょうか。

## 祈り

慈愛に満ちた神よ、

他の人々との出会いにより、恵みの新しい地平が開かれることをわたしたちが、イエスとサマリアの女から学ぶことができるようお助けください。

自分の限界を打ち破り、新たな挑戦を受け入れることができるよう、お助けください。

恐れを超えて、あなたの御子の呼びかけに従うことができるよう、お助けください。

イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン。

## 第5日 知らせる

あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです（ヨハネ4：11）

創世記46：1-7 神はヤコブにエジプトに行くことを恐れないようにと言われる

詩篇133 家族が一致のうちに暮らすのはなんと良いことか

使徒言行録2：1-11 聖霊降臨の日

ヨハネによる福音書4：7-15 「あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです」

### 解説

イエスは助けを必要としていました。長い旅路の末、疲れが頂点に達していたのです。日中の暑さに疲れ果て、イエスは空腹と渴きを感じていました（ヨハネ4：6）。しかも、イエスは異邦人でした。つまり、彼は異国の地にいるのであり、井戸はその女の民族のものでした。サマリアの女が言うように、イエスは渴いていましたが、井戸の水をくむつるべを持ち合わせていませんでした。イエスは水を求め、この女性の助けを必要としていました。誰もが、人の助けを必要としているのです。

多くのキリスト者が、自分だけがあらゆる答えを知っており、誰の助けも必要ないと考えています。このような視点を持ち続けるなら、わたしたちの失うものは大きいでしょう。わたしたちの誰も、神の井戸の深みに到達することはできません。しかし、信仰は神秘の深みをたどることを求めています。それは独りでできないことです。わたしたちには、キリスト者である兄弟姉妹の助けが必要です。その助けが得られてはじめて、神の神秘の深みに入ることができるのです。

わたしたちがどの教派に属していようとも、わたしたちは皆、神はわたしたちの理解を超えた神秘であることを信仰のうちに理解しています。キリスト教一致を求めることによって、わたしたちは、どの共同体も、神の水の深みに到達するのに必要な手段をすべて、持っているのではないことに気づきます。わたしたちには水、そして助けが必要です。誰もが、助けを必要としているので

す。水をくむためのおけを分かち合い、縄をより合わせながら、一致のうちに成長すればするほど、神の井戸の中により深く入っていけるのです。

ブラジル古来の伝統は、年長者の知恵から学ぶこと、幼児の好奇心や無邪気さに学ぶことをわたしたちに教えてくれます。互いを必要としていることを受け入れられるようになったとき、わたしたちは子供のようになって、学ぶことに開かれます。神の国はまさにそのようにしてわたしたちに開かれます（マタイ18：3）。わたしたちはイエスのように行わなければなりません。自ら進んで異邦人として見知らぬ土地に入り、自分とは異なる人から学びたいという思いを育まなければならないのです。

## 問い

- 1) あなたの教会は、他の教会を助けたり、他の教会から助けられたりしたことがありますか。
- 2) あなたの教会の中には、他の教会から助けを受けることに対するためらいがあるでしょうか。そうしたためらいは、どうすれば克服できるでしょうか。

## 祈り

生きた水の泉である神よ、  
わたしたちが共に、縄をより合わせば合わせるほど、  
わたしたちのつるべがあなたの水の奥深くに達することをお教えてください。  
他の人々の贈り物はあなたの計り知れない神祕の表れです。  
この真理に目覚めさせてください。  
そして、わたしたちが共に井戸のそばに座り、  
あなたの水でのどを潤すことができますように。  
あなたの水は一致と平和のうちにわたしたちを集めてくださいます。  
この祈りを、渴きをいやす水をサマリアの女に求めた  
あなたの御子、イエス・キリストのみ名によってお捧げいたします。  
アーメン。

## 第6日 証言

イエスは言われた「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」(ヨハネ4:14)

出エジプト記2:15-22 ミディアンの井戸におけるモーセ

詩篇91 主に身を寄せ隠れる人の歌

ヨハネの手紙一4:16-21 完全な愛は恐れを締め出す

ヨハネによる福音書4:11-15 「永遠の命に至る水がわき出る」

### 解説

イエスが水を求めることで始まったこの対話は、イエスが水を約束する対話となります。同福音書の中で、イエスは後に再び水を求めます。十字架上で、「わたしは渴く」と言われるのです。その十字架の上で、イエスは約束された水の泉となられ、槍で突かれたそのわき腹からは水が流れ出ます。わたしたちは洗礼においてこの水、このいのちをイエスから授かります。それは、人に与え、分かち合うために、わたしたちの中からわき出る水であり、いのちです。

ここで、この水を飲み、それが自分の中でわき出る泉となった、あるブラジル人女性のあかしをご紹介します。

カンポ・グランデという都市に住む看護師ロミは、ペンテコステ派の牧師でした。ある日曜の夜、ロミの近所に住んでいるセメイという名の16歳の先住民の少女が、掘っ立て小屋の中で、たった一人で男の子を生みました。彼女は床に転がって出血している状態で発見されました。ロミは彼女を病院に連れて行きました。セメイの家族はどこにいたのでしょうか。捜索が行われ、家族は見つかりましたが、彼らはセメイに何があったかを知りたがろうとはしませんでした。セメイと赤ちゃんには帰る家がなかったのです。ロミは彼女たちを、質素な自宅に引き取りました。ロミはセメイと面識がありませんでしたし、カンポ・グランデでの先住民に対する偏見は深刻でした。セメイは健康上の問題を抱え続けましたが、ロミの広い心が、近所の人々の優しさを引き出しました。

セメイは母乳を与えることができなかったので、新米の母親であるヴェロニカというカトリック信者が代わりに母乳を与えました。セメイは赤ちゃんをルカ・ナタニエルと名づけ、その後、彼らは町から離れ、農場に移ることができました。しかしセメイは、シスターや近所の人々の優しさを決して忘れることはありませんでした。

イエスが与え、ロミが洗礼のうちに受けた水は、彼女の中で泉となり、セメイとその子へのいのちの贈り物となりました。ロミのあかしに促され、この洗礼の水は彼女の隣人たちの生活の中でも泉となりました。いのちへと湧き出る洗礼の水が、キリスト者の愛のわざのエキュメニカルなあかしとなりました。その愛のわざはイエスが約束した永遠のいのちの前触れなのです。

このような一般の人々による具体的な行いは、わたしたちが兄弟愛のうちに成長するために必要なものです。それは福音をあかしするとともに、エキュメニカルな関係を意義深いものにするのです。

## 問い

- 1) イエスを通して「永遠の命にいたる水がわき出る泉」(ヨハネ4:14)になるというイエスの言葉を、あなたはどう解釈しますか。
- 2) どのような状況において、キリスト者があなたや他の人々にとっての生きた水の泉となっているのでしょうか。
- 3) 一般社会において、諸教会が生ける水の泉となるために、声をひとつに合わせて発言していかなければならない状況とはどのようなものなのでしょうか。

## 祈り

三位一体の神よ、

わたしたちが、イエスの模範に従いつつ、

あなたの愛のあかし人になれるようお助けください。

わたしたちを正義と平和と連帯の道具としてください。

あなたの霊が、一致へと導く具体的な行動へ、わたしたちを動かしてください

ますように。

隔ての壁がかけ橋に変えられますように。

聖霊の一致のうちに、イエス・キリストのみ名によって、お祈りいたします。

アーメン。

## 第7日 証言

「水を飲ませてください」(ヨハネ4:7)

民数記20:1-11      メリバにおけるイスラエル人たち

詩篇119:10-20 「御言葉を決して忘れません」

ローマの信徒への手紙15:2-7 「あなたがたも互いに相手を受け入れなさい」

ヨハネによる福音書4:7-15 「水を飲ませてください」

### 解説

キリスト者は、たとえ相手が他の宗教の信者であったとしても、その人と出会い、経験を分かち合うことで自分自身が変わられ、それが井戸の深みに達するための一助となることを確信していなければなりません。わたしたちが告げ知らせる「神の神秘」は、井戸から水を飲みたいと願っている異邦人とかかわることを通して開かれていくのです。

神の民が荒野で水に事欠いていたとき、神はモーセとアロンを送って、岩から水を出してくださいました。同じように、神はしばしば他の人々を通して、わたしたちの必要を満たしてくださいます。サマリアの女がイエスに「主よ、その水をください」と言ったように、わたしたちが主に呼びかけるとき、もしかすると主はすでに、わたしたちの祈りにお応えになり、隣人の手にわたしたちが求めているものを置いてくださっているかもしれません。ですから、わたしたちは隣人に向かい、「水を飲ませてください」と言う必要があるのです。

わたしたちの要求への応えは、しばしば、隣人の生活や善意の中にすでに存在しています。ブラジルのグアラニー族の人々から次のことを学ぶことができます。それは、彼らの言語には、「宗教」という言葉に相当する単語がないことです。生活全般から切り離された「宗教」という概念がないのです。彼らの言語で通常使われる表現は、「我々の良いあり方」(ñande reko katu) と翻訳できますが、これは宗教を含めた文化全体を指しています。したがって、宗教はグアラニー族の文化の一部であると同時に、彼らの考え方とあり方 (teko)

なのです。それは、共同体をよりよくし、発展させ、「よいあり方」(teko katu) に導くすべてのことに関わっています。グアラニー族の人々は、キリスト教が初めは「道」(使徒言行録9:2)と呼ばれていたことを思い起こさせてくれます。「道」や「よいあり方」は、わたしたちのいのちのすべての部分に調和をもたらす神の道なのです。

## 問い

- 1) 他のキリスト者との出会いによって、あなたの神の理解や経験はどのように豊かにされたでしょうか。
- 2) キリスト教共同体は、あなたの地域の先住民族の知恵や他の宗教から何を学べるでしょうか。

## 祈り

いのちの神よ、

あなたは全被造物を心にかけ、わたしたちに正義と平和を呼びかけます。

武器ではなく尊敬によって安全がもたらされますように。

わたしたちの力が暴力ではなく愛によるものでありますように。

わたしたちの富が、金銭ではなく分かち合いのうちにありますように。

わたしたちの道が、野心の道ではなく正義の道でありますように。

わたしたちの勝利が、復讐ではなくゆるしのうちにありますように。

わたしたちの一致が、力の追求のうちではなく、

み心を行うための無防備なあかしのうちにありますように。

確信と開かれた態度を持って、すべての被造物の尊厳を守ることができますように。

今日も世々とこしえに、連帯と正義と平和のパンを分かち合うことができますように。

この祈りを、わたしたちの暴力のいけにえとして十字架につけられ、

皆にゆるしを与えてくださった、

あなたの聖なる御子、わたしたちの兄であるイエスの名によってお捧げします。

アーメン。

(正義を通して平和を実現する第一歩として、貧困の撲滅をよびかけた、ブラジルのエキュメニカルな会議の祈りより)

## 第8日 あかしする

多くの人々が、女の言葉によって信じた（ヨハネ4：39）

出エジプト記3：13-15 燃える柴におけるモーセ

詩篇30 主はわたしたちにいのちを得させてくださる

ローマの信徒への手紙10：14-17 「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」

ヨハネによる福音書4：27-30, 39-40 多くの人々が女の言葉によって信じた

### 解説

サマリアの女は、生まれ変わった心で、宣教のために出かけていきます。彼女はメシアを見つけたことをサマリアの人々に知らせます。多くの人々が「女のあかしによって」（ヨハネ4：39）イエスを信じました。この女性のあかしの力強さは、イエスとの出会いによって彼女の人生がまったく変えられたことから来ていました。その開かれた態度のおかげで、彼女はあの異邦人の中に「永遠の命に至る水の泉」（ヨハネ4：14）を見出すことができたのです。

宣教は、キリスト教信仰の主要な要素です。すべてのキリスト者は、主の名を宣べ伝えるよう招かれています。教皇フランシスコは、「どこへ行こうとも、神の霊がいつも先にそこへ着いておられると思うことが皆さんの助けになります」と宣教師たちに述べています。宣教とは、改宗を迫ることはありません。本当にイエスを宣べ伝える者は、違いを尊重し、学びあうことに開かれ、心のこもった対話のうちに相手に接するのです。宣教においては、井戸を独占せずに生きた水で喉を潤すことが必要です。井戸はわれわれの所有物ではありません。むしろ、わたしたちは井戸から、キリストが与えた生きた水の井戸からいのちを得ているのです。

宣教は、言葉と行いの両方によるものでなければなりません。わたしたちは、自分が宣べ伝えていることを、自らも生きようとします。信者が口で言ったことを実行しないことに幻滅して無神論者になった人が大勢いると、ブラジルの

故ヘルダー・カマラ大司教が述べています。サマリアの女のあかしによって共同体がイエスを信じたのは、その言葉が彼女の生まれ変わった様子に裏打ちされているのを兄弟姉妹が目にしたからなのです。

もしわたしたちの言葉とあかしが本物なら、世界は聞いて信じるでしょう。「聞いたことがない方をどうして信じられよう」（ローマ10：14）。

## 問い

- 1) 一致と宣教とはどういう関係にあるのでしょうか。
- 2) あなたの共同体の中には、その人生の歩みが一致のあかしとなっているような人がいるのでしょうか。

## 祈り

生きた水の泉である神よ、

わたしたちが言葉と生き様を通して

一致のあかし人となれますように。

自分が井戸の所有者でないことを理解できるようにお助けください。

互いの中にある同じ神の恵みを迎え入れる知恵をお与えください。

よき知らせの本当の伝達者となれるように、

わたしたちの心と生活を変えてください。

あなたとの出会いとして、

人々と出会うことができるようにいつも導いてください。

あなたの御子イエス・キリストの御名によって、

聖霊の一致のうちに、この祈りをおささげいたします。

アーメン。

## ブラジルのエキュメニズムの現状

ブラジルのエキュメニカル運動のルーツは、19世紀以来この国で活動してきたさまざまなプロテスタント宣教組織の教派を超えた協力にあります。プロテスタント教会全体の協力体制が高まる中、長老派のエラスモ・ブラガ牧師が、1903年に「福音同盟」と「キリスト教運動」という組織を立ち上げました。これらの組織は、宣教と教育における協力、プロテスタント間の一致を促進することを目的とし、宗教の平等という共和主義的な原則も支持していました。

1916年に行われたパナマ会議<sup>4</sup>では、ラテンアメリカにおける超教派の宣教協力に関する話し合いが行われましたが、そこでもこうした動きが大きく後押しされました。パナマ会議の後、ブラジル協力委員会が設立されました。この委員会には、さまざまな教会や宣教会を含む19の教会共同体が参加しました。

1934年には、エキュメニズム推進のため、ブラジル福音連盟（CEB）が設立されました。CEBは、世界教会協議会の理想を推し進めるために後に、重要な役割を果たすこととなります。その設立に関わったのは、メソジスト、聖公会、長老派の各教会とブラジル独立長老派教会でした。1959年には、これにブラジル・ルーテル派福音教会が加わり、1963年にはフォースクエア福音教会が、1968年にはブラジル・パラ・クリスト・ペンテコステ派教会が加わりました。

CEBの重要な課題は宣教でした。そのため、さまざまな宣教組織によって行われる宣教活動を調整するために教会間関係協議会が設立されました。その目的は、活動の重複や、組織や教会間の競争を避けることでした。

CEBの働き<sup>5</sup>の中で、もうひとつ広く知られているのは、ブラジルの社会問題を取り扱った回報の発行です。農地改革や教育の改善、識字教育、緊急時対

(4) パナマ会議は、英国エディンバラで開かれた世界宣教会議（1910）への抗議として開かれたもの。エディンバラ会議は、ラテンアメリカでは他教派のクリスチャンを改宗させようとする動きがあるとして、ラテンアメリカで活動している宣教組織を招待しなかった。パナマ会議については多くの論評があるが、ハンス・ユルゲン・グリーンは、同会議がラテンアメリカにおける、もっとも熱狂的なプロテスタント宣教の終焉を告げるとともに、ローマ・カトリックが多数を占める環境でのプロテスタント宣教についての批判的な考察を推進することになったとしている（TIEL, 1998, p.43）。このパナマ会議から、ラテンアメリカにおける宣教協力を話し合ういくつかの会議が生まれた。

策などの社会問題を取り扱っていました。

ブラジルにおける教会の社会的責任を考えるこうした取り組みの中で、若者たちの運動も重要な役割を果たしました。1940年代後半にオスロで開かれた、世界キリスト教青年会議はそうした取り組みを促進するために貢献した重要な会議でした。ブラジルの若者たちは、そこで欧米の新しい聖書的、神学的視点に接することができたのです。

ブラジルの若者たちが、世界学生キリスト教連盟（WSCF）などの国際的なキリスト教青年運動に盛んに参加したことにより、社会的福音の神学が発展し、読書会のグループが徐々に誕生し、社会の現実としっかりと向き合えるような社会状況に即した聖書解釈が登場しました。ブラジルの諸教会は、こうしたグループの中で発生した社会的、経済的対立の問題に対処する必要に迫られたのです。

こうした動きは、「革命の神学」の提唱における先駆者である、アメリカの神学者リチャード・ショールの影響でさらに高まりました。また、貧しい人々に寄り添って生きることを目指したフランスのカトリック司祭たちの模範も大きな影響を及ぼし、ブラジルの多くの若いキリスト教徒たちを鼓舞しました。そこで課題となったのは、ブラジルの文化とブラジル社会の問題の両方を考慮に入れるような神学を育てていくことでした。

1953年にはCEBに「教会の社会的責任」部門が設けられました。この新しい部門の目的は、信仰の意義を国レベルで研究することと、社会的、政治的な状況との関連で社会事業と福音宣教を見きわめることでした。その結果、4つの全国会議が、ブラジルの現実を理解しプロテスタントの視点からの展望を明確にするために開催されました。

この4つの会議で扱われたテーマは以下の通りです。「教会の社会的責任」（1955）、「教会の社会的責任の研究」（1955）、「国民性の進化における教会の存

---

(5) CEBはラテンアメリカ福音会議（CELA）に参加した。その中でもっとも重要なのは1961年にリマで開かれた第二回会議（CELA II）である。この会議にはラテンアメリカの34の教派から220名の代表が集まった。リマ会議の委員会から、ラテンアメリカ福音キリスト教教育委員会（CELADEC）とラテンアメリカにおける教会と社会委員会（ISAL）が設立され、とくに後者はブラジルにおけるエキュメニズムの推進のため非常に重要だった。

在」(1960)、「イエス・キリストとブラジルの革命過程」(1962)。第3回、第4回会議の頃から、ローマ・カトリック教会との対話に対して開かれた姿勢が見られ始めました。カトリックもまた、ブラジルの社会的、政治的問題について話し合いを行っていました。

1950年代と60年代におけるエキュメニカル運動の発展は、当時支配的だった経済発展のモデルに対する批判的な見方によって特徴づけられます。「進歩」や「工業化」といった概念が、ごく一部の人々による富の蓄積を正当化するために用いられる一方で、大多数の人々は経済発展によって生み出されたモノや富を手にすることができませんでした。4つの会議に触発され、エキュメニズムにおいて宣教と社会変革に重点を置くことが、ローマ・カトリック教会でも行われるようになりました。会議の結果は雑誌にも掲載されました。教会の社会的責任についての神学的な考察が、福音宣教と社会活動を同時に追求する諸教会の一致のためのエキュメニカル運動の展開につながりました。

1964年の軍事クーデターの後、CEBは徐々に解体されてしまいます。しかし、同連盟が推進したエキュメニカルな働きはすべて消えてしまったわけではありません。第二バチカン公会議によって、ブラジルのローマ・カトリック教会も他のキリスト教徒との対話に開かれた態度を示すようになり、また教会の社会的責任についても、より意識するようになっていました。ブラジルの人々が直面していた緊急の社会問題に比べれば、諸教会を分裂させていた教理の違いは二次的な問題に過ぎず、政治的な抑圧を前に、エキュメニズムは新たな力を得て活発になります。

軍事独裁体制下で、さまざまなプロテスタントとカトリックのエキュメニカルなグループ（その中には非キリスト教徒も含まれていました）は、人権尊重を訴え、拷問を非難し、民主的な透明性を追求し始めました。これらのグループは、人権を尊重する社会の価値感を促進させることを目的とする他のグループや計画を後押ししました。そのような背景のもとに、1980年代に世界教会協議会とカトリックのサンパオロ大司教区が「二度と繰り返さないブラジル計画(Brasil Nunca Mais)」を共同で立ち上げました。長老派のハイメ・ライト牧師とサンパオロ大司教のパウロ・エヴァリスト・アルンス枢機卿が調整役を務

めたこの計画の目的は、軍事政権の終わりにあたって、政治犯罪に関する法的文書が破棄されないようにすることと、政治的抑圧のもとで行われた拷問に関する情報を集めることでした。軍部によって行われた人権侵害を明らかにすることが、ブラジル社会で啓発的な役割を果たすものと期待されていたのです。

抑圧の状況と人権の問題は、ブラジルのエキュメニカル運動の中心課題であり続けています。この意味で、エキュメニカル運動に関わっているさまざまな教会の神学者たちの貢献を強調することが重要です。たとえば、聖書研究におけるエキュメニカルな協力により、女性が社会や教会でおかれている状況についての議論がより活発に行われるようになりました。

1975年からは、ローマ・カトリック教会、ブラジル・ルター派福音教会、聖公会、メソジスト教会の指導者たちがともに、諸教会による全国的な協議会の設立を思い描き始めました。その思いは1982年にブラジルキリスト教協議会(CONIC)が設立されたことで実現しました。ブラジルの全エキュメニカル運動において、CONICは、参加教会間の根本的なつながりを強めるエキュメニズム組織として位置づけられます。CONICの数ある責務の一つは、司牧活動のすべての領域でエキュメニカルな側面を持つように諸教会を促すことです。

CONICは、非常に複雑なブラジルの宗教事情の中で、教会と他宗教との対話を促進することを目指しています。宗教的な不寛容が広がるなかで、宗教原理主義の影響を最小限に抑えることを目的とした数々の公開討論会にも関わっています。そして教会と社会の関係についての議論においても指導的な役割を果たし、とりわけ、市民社会組織と国家との関係を規制する必要があることを訴えています。CONICは、宗教的な組織と人権擁護運動の間関係や、両者間にしばしば生じる対立に対して、社会における異なった見方や認識についての神学的考察を進めるべきだという見解のもとに活動してきました。

CONICの最も重要な働きのひとつは、毎年のキリスト教一致祈祷週間です。CONICはまた、2000年、2005年、2010年にブラジル・カトリック司教協議会によって主催された、3つのエキュメニカルな四旬節キャンペーンも支援しました。4回目は2016年に予定されています。

ブラジルのエキュメニカル運動には、ラテンアメリカ教会協議会 (CLAI)、

聖書研究センター（CEBI）、福音化と普通教育エキュメニカル奉仕センター（CESEP）などの数多くの組織やグループ、さらにはエキュメニカル奉仕調整局（CESE）や「コイノニア―エキュメニカルな存在と奉仕」などの事業団が含まれていることも強調しなくてはなりません。これらの団体はアクトフォーラム―ブラジルにも参加しています。そこでは、ブラジルのエキュメニカル運動の主な方針が話し合われ、決定されています。また、キリスト教会友愛会（和解の家）という活動もあります。この会は、さまざまな教会、出版社、大学などの間で、集会や講座などを企画、運営しています。わたしたちの一致のあかしは、さまざまな形で表れます。その中で、わたしたちは、暴力を引き起こしたり、神の国、正義と平和の国（ローマ14：17）を遠ざけたりするような社会構造を変えるよう尽力しているのです。

## ◇キリスト教一致祈禱週間に関する歴史上の重要な年◇

1740年頃 スコットランド	スコットランドで起こり、北アメリカ大陸まで及んでいった聖霊による働きに目覚めた人々がいた。それは諸教会を包む信仰覚醒運動の祈りであった。(メソジスト運動)
1820年 ジェームス・H・ スチュアート	ジェームス・H・スチュアート神父の著作が出版された。 "Hints for the General Union of Christians for the Outpouring of the Spirit"
1840年 イグナティウス・ スペンサー	ローマ・カトリックへ改宗した、イグナティウス・スペンサー神父は、「一致のための合同の祈り (Union of Prayer for Unity)」を提唱した。
1867年 ランベス会議	聖公会の主教たちによる第1回ランベス会議が行われ、一致祈禱についての転換の前兆となった。(1920年のランベス会議決議では、「教会の再一致の訴え」を協議した。)
1894年 教皇レオ13世	ローマ教皇レオ13世は、聖霊降臨に関連して、一致のために八日間の祈りの実施を奨励した。
1908年 ポール・ワトソン	「教会一致のための八日間の祈り」が、ポール・ワトソン神父によって初めて行われた。
1926年 信仰と職制運動	信仰と職制運動は「キリスト教一致のための八日間の祈りの提案」を広める活動を開始した。
1935年 ポール・ クトゥリアル	フランスのポール・クトゥリアルは「主の意志によってキリスト教が一致しようとする」祈りを基に包括した「普遍的なキリスト教一致祈禱週間」を提唱した。
1958年 "Unité Chrétienne"	"Unité Chrétienne" (フランス、リヨン市)とWCC (世界教会協議会)の信仰職制委員会は、祈禱週間のために資料を協同で準備し始めることとなった。
1964年 エルサレム	教皇パウロ6世と総主教アテナゴラス1世が、共にイエスの祈り「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17章)を唱える。
1964年 第二バチカン 公会議	第二バチカン公会議の「エキュメニズム教令」ではエキュメニカルな運動の精神とキリスト教一致祈禱週間の遵守を促進することを強調した。
1966年 信仰職制委員会、 一致推進秘書局	WCC (世界教会協議会)の信仰職制委員会とキリスト教一致推進秘書局 (現教皇庁キリスト教一致推進評議会)は、祈禱週間テキストについて公式な協同の準備を開始した。
1968年 第1回教会一致 祈禱週間	第1回「キリスト教一致祈禱週間」は、「信仰職制」のテキストに基づいて行われ、それはキリスト教一致推進秘書局と協同で準備された。
1975年 地方教会による一 致祈禱週間冊子	地方教会のエキュメニカル・グループが作成した草案に基づくキリスト教一致祈禱週間の冊子を初めて使用。この年の草案を作成したのはオーストラリアのグループ。
1988年 マレーシア・キ リスト教連盟	マレーシア国内の主要キリスト教教派の連合のマレーシア・キリスト教連盟が大会開会礼拝でキリスト教一致祈禱週間冊子を使用。

1994年 YMCAとYWCA	YMCAとYWCAが協力して1996年キリスト教一致祈祷週間テキストを作成。
2004年 キリスト教一致 祈祷週間冊子	以後、キリスト教一致祈祷週間の冊子を、信仰職制委員会（WCC）と教皇庁キリスト教一致推進評議会（カトリック）が同一の体裁で協同制作・出版することが合意された。
2008年 100周年	キリスト教一致祈祷週間開始100周年（教会一致のための八日間の祈りが1908年に初めて行われた）。

### ◇キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧（1968-2015年）◇

- 1968 神の栄光をほめたたえるに至るために（エフェソ 1・4）  
1969 自由への召し（ガラテヤ 5・13）  
1970 わたしたちは神の同労者である（Iコリント 3・9）  
1971 聖霊の交わり（IIコリント 13・13）  
1972 わたしは新しいおきてをあなたがたに与える（ヨハネ 13・34）  
1973 主よ、祈ることを教えてください（ルカ 11・1）  
1974 すべての舌が「イエス・キリストは主である」と告白するように（フィリピ 2・1-13）  
1975 すべてはキリストのもとに（エフェソ 1・3-10）  
1976 わたしたちはまことの姿になるように召されている（Iヨハネ 3・2）  
1977 とともに希望をもって屈せず（ローマ 5・1-5）  
1978 もはや他人ではない（エフェソ 2・13-22）  
1979 み栄えのため互いに仕えよう（Iペトロ 4・7-11）  
1980 み国が来ますように（マタイ 6・10）  
1981 一つの霊 多くの賜物 一つの体（Iコリント 12・3b-13）  
1982 主こそわがやどり（詩編 84）  
1983 イエス・キリスト - この世の生命（Iヨハネ 1・1-4）  
1984 主の十字架は一致への道（Iコリント 2・2、コロサイ 1・20）  
1985 キリストとともに死から生命へ（エフェソ 2・4-7）  
1986 我が証人となれ（使徒 1・6-8）  
1987 キリストにあってともに新しく（IIコリント 5・17-6・4a）  
1988 愛は恐れをとりぞく（Iヨハネ 4・7-21）  
1989 キリストに結ばれて一つのからだに（ローマ 12・1-21）  
1990 キリストの祈りのうちに（ヨハネ 17）  
1991 すべての国よ、主を賛美せよ（詩編 117、ローマ 15・5-13）  
1992 わたしはあなたがたとともにいる。だから行きなさい（マタイ 28・16-20）  
1993 聖霊の実はキリスト者の一致を生む（ガラテヤ 5・22-23）  
1994 神の家族・心も思いも一つにして（使徒 4・23-37）  
1995 コイノニア・神にある交わり、お互いの間の交わり（ヨハネ 15・1-17）  
1996 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている（黙示 3・14-22）  
1997 神と和解させていただきなさい（IIコリント 5・16-21）  
1998 “霊”は弱いわたしたちを助けてくださる（ローマ 8・14-27）

- 1999 神が人と共に住み、その神となり、人は神の民となる（黙示21・3）
- 2000 神はほめたたえられますように。神はわたしたちをキリストにおいて祝福で満たしてくださった（エフェソ 1・3-14）
- 2001 わたしは道、真理、いのち（ヨハネ 14・6）
- 2002 神よ、命の泉はあなたにある（詩編 36・6-10）
- 2003 わたしたちは、このような宝を土の器に納めています（Ⅱコリント 4・7）
- 2004 わたしの平和を与える（ヨハネ 14・27）
- 2005 教会の土台であるキリスト（Ⅰコリント 3・1-23）
- 2006 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる（マタイ 18・18-20）
- 2007 耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにして下さる（マルコ 7・31-37）
- 2008 絶えず祈りなさい（Ⅰテサロニケ 5・(12a) 13b-18）
- 2009 それらはあなたの手の中で一つとなる（エゼキエル 37・15-28）
- 2010 あなたがたはこれらのことの証人となる（ルカ 24・48）
- 2011 使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに一つ（使徒 2・42参照）
- 2012 わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます（Ⅰコリント 15・51-58参照）
- 2013 神が何をわたしたちに求めておられるか（ミカ 6・6-8参照）
- 2014 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか（Ⅰコリント 1・1-17）
- 2015 イエスは「水を飲ませてください」と言われた（ヨハネ 4・7）

### <お願い>

この種の出版や今後の共働を推進するために、全国のキリスト者の皆様のご理解とご支援を心から期待しております。合同祈祷会の献金の一部、あるいは有志の献金を多少なりともお送りくだされば、事務局の活動の大きな励ましと支えになります。ご協力をお願い申し上げます。

### 日本キリスト教協議会

135-0016 東京都江東区東陽2-3-1 イトーピア東陽町216号  
TEL 03-6666-8760 Fax 03-6666-8766  
郵便振替 00180-4-75788 『日本キリスト教協議会』

### カトリック中央協議会

135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内  
TEL 03-5632-4445 Fax 03-5632-4465  
郵便振替 00120-7-410103 『(宗)カトリック中央協議会委員会口』  
(通信欄に「キリスト教一致祈祷週間」と明記してください)